

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4675700100号
法人名	有限会社 エミ企画
事業所名	グループホーム くりの
訪問調査日	平成 21 年 10 月 30 日
評価確定日	平成 21 年 11 月 21 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4675700100号		
法人名	有限会社 エミ企画		
事業所名	グループホーム くりの		
所在地	鹿児島県 始良郡 湧水町 米永 181-1 [電話 0995-74-1220]		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年10月30日	評価確定日	平成21年11月21日

【情報提供票より (21年10月1日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤11人	非常勤4人 常勤換算13.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000円	その他の経費(月額)	15,000円
敷金	有()円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	12名	男性	2名	女性	10名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.3歳	最低	53歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関	田代医院	田中歯科医院	上原歯科医院
--------	------	--------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、県道55号線沿いにあり、周囲は田畑が広がり、ホームから栗野岳等の山々が見え、自然豊かな地域である。2階へは木造りのゆったりとした階段があり、入口には入居者がゆっくりくつろげるテーブルと椅子が置いてある。職員は「自分の親ならどう接するか」を常に心に刻み心豊かなケアを行っている。またホームでは、自家製の味噌や野菜が毎日の食卓に出て、みんなで食事を楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義の理解と活用では、自己評価を職員全員で取り組むことを検討中である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連事項:外部4、5、6)
	職員は評価の意義や利点について、理解を深めるよう心がけているが、自己評価を職員全員で取り組むことは検討中なので、今回は主に管理者と計画作成担当者で行った。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	入居者代表・家族代表・地域代表・町代表・民生委員・職員が参加し、ホームの状況や行事の報告・地域との関わり方・行政への質問等があり、積極的に話し合っている。その中で意見や要望等は、サービスの向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	意見箱の設置や家族会時・面会時に家族が気軽に意見や要望等の話ができるような雰囲気作りに努め、意見・要望等は、職員で話し合いを行ない、対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の行事に入居者と一緒に参加したり、豊祭相撲大会等の応援や「ほほえみ通信」を入居者と一緒に近隣に配っている。また中学生の職場体験の受け入れなどをして、地域の住民と交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの理念を事業所独自で作りに上げている。また「地域社会の人々とともにたのしい暮らしを目指します」との活動目標もある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいて、全職員が日々取り組んでおり、「自分の家族ならどう接するか」を常に心に刻み、心豊かなサービスの向上に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、入居者と一緒に地域の行事に参加したり、豊祭相撲大会等の応援や「ほほえみ通信」を入居者と近隣に配っている。また中学生の職場体験実習の受け入れをするなど、地域の住民と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義や利点等について具体的に理解を深めるよう研鑽しているが、職員全員で取り組むことを検討中なので、今回は管理者と計画作成担当者で行った。	○	全職員で自己評価に取り組むことが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2～3ヶ月に1回開催され、入居者代表・家族代表・地域代表・民生委員・町担当・職員が参加し、ホームの状況や行事の報告等がなされ、地域との関わり方や行政への質問等もあり、説教的に話し合っている。その中での意見や要望は、サービスの向上に活かしている。		自己評価・外部評価についても運営推進会議で協議されることが期待される。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者に「ほほえみ通信」を配布したり、運営推進会議以外にも、地域包括支援センター主催の研修会に毎月参加し、町の担当者と話し合う機会があり、相談したりしてサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者ごとの担当職員が、家族へ本人の暮らしぶりや健康状態等を報告している。金銭管理については領収書を添付し、収支報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族会時・家族の面会時に気軽に意見や要望等の話ができるような雰囲気作りに努め、意見・要望等は職員で話し合いを行い、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動は行っていないが、ユニット間で交流をしているので、異動しても入居者に不安がないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のケア会議の中で、職員の質の向上を目指した勉強会を設けたり、また地域包括支援センターの研修会にも参加し、サービスの質向上に活かしている。また外部から講師を招き研修会を行い、トレーニングしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、あらゆる研修会に参加し、地域包括支援センター主催の研修会にも積極的に参加し、同業者との交流を通じてサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は、職員が家庭訪問を行い、またホームに本人や家族に見学に来てもらったり、体験入居をするなどして、馴染みの関係を重ね、ホームでの生活が安定するように時間をかけて工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという認識のもとに、本人から学んだり和やかな生活ができるように、お互いに支えあう良い関係の構築に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日常の暮らしの中で、本人の希望や意向の把握に努め、食べたい物・行きたいところ等の、希望に添えるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員が出席して、それぞれの入居者について意見・要望・気づき等を話し合い、その結果を本人や家族・主治医と相談し、意見を反映したケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごとに見直しを行っているが、本人や家族の要望に応じて、そのつど見直しを行っている。また対応できない変化が生じた場合は、本人や家族・必要な関係者と話し合い、新たな介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性を活かして、医療機関への受診の送迎や買い物・墓参り等の柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医への受診を支援している。また協力医院との関係を築き、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に対する方針を家族等やかかりつけ医と相談し、職員間でも共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねないように、職員は言動や態度に日々細心の注意を払っている。失禁があった場合は、さりげなくトイレ誘導したり、更衣を促すなどの支援をしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しても全職員が取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の流れはあるが、入居者の意思を尊重し、体調に配慮しながら、食事や入浴等の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの力を活かしながら、職員と一緒に食材の準備・下ごしらえ・配膳・後片付けなどを行っている。好みの食材を取り入れて、楽しい食事ができるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴時間は決めているが、本人の体調や希望に沿って入浴を楽しめるように支援している。24時間対応できる入浴設備があり、自由に入浴できるようになっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの得意分野を活かして、食事の準備や、楽しみごとや気晴らしとして菜園の管理・洗濯物干しやたたみ・縫い物などの支援をして、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者一人一人の希望に沿って、敷地内の菜園の管理や収穫・散歩・「ほほえみ通信」の配布・ドライブ等の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。職員は職員会議やケア会議などで、鍵をかける弊害について研修を行い、見守りや連携を取り合って一人ひとりの行動を把握し、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力・指導のもとで、昼・夜間想定の実演を行っており、非常用食品や水・懐中電灯も準備している。緊急時の連絡網も整備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事・水分摂取量を記録して、個々に応じた摂取量の確保ができるように支援している。栄養バランスを配慮し、体調に応じてヨーグルトや繊維の多い芋類などを摂取するなど対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りに花や観葉植物を置いたり、リビングにはゆったりとくつろげるソファがいくつもあある。季節を感じさせる花や作品が飾られ、オープンデッキも設置され、入居者がゆったりくつろげる居心地の良い共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた、ふとんやタンス・テレビなどが持ち込まれ、家族の写真や好みのものが飾られ、居心地良く過ごせるような工夫がしてある。		

※  は、重点項目。